

## 芸 術

### 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

#### (1) 改善の基本方針

芸術については、育成する資質や能力、態度が一層明確にされ、下記の課題を踏まえて改善の基本方針が示された。各科目における改善の基本方針の概要は次のとおりである。

ア 音楽については、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。

イ 美術、工芸については、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。

ウ 書道については、中学校国語科の書写との関連を考慮し、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質や能力の育成を図るようにする。

エ 芸術科では、我が国や郷土の伝統音楽の指導（音楽）、我が国の美術や文化に関する指導（美術・工芸）、自分の価値意識をもって批評し合うなどの指導（書道）などの一層の充実が求められている。

#### 【音楽における課題】

- ・ 感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを働かせる力、生涯にわたって音楽に親しみ、音楽文化のよさを味わったり、生活や社会に生かしたり豊かにしたりする態度の育成。
- ・ 音楽を表現する技能と鑑賞する技能と鑑賞する能力の育成においては、音や音楽を知覚し、感性を働かせて感じ取ることを重視すること。
- ・ 歌唱の活動に偏る傾向があり、表現の他の分野と鑑賞の学習が十分でない状況が見られるため、創作と鑑賞の充実を図ること。
- ・ 我が国の音楽文化に愛着をもち、そのよさを感じ取って理解し、他国の文化を尊重する態度等を養うため、長く歌い継がれ親しまれてきた日本のうたや、和楽器などの伝統音楽の学習の充実。

#### 【美術・工芸における課題】

- ・ 感性を働かせて思考・判断し、創意工夫をしながら表現したり作品を鑑賞したりするという一連のプロセスを働かせる力を育成すること。
- ・ 子どもたちの興味や関心の高まりを資質や能力の向上に生かすような指導の改善を図ること。
- ・ 生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり、豊かにしたりする態度の育成。
- ・ 感じ取ったことをもとに、自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意味を発見するなどの鑑賞の学習の充実。
- ・ 我が国の文化等にかかわる学習を通して、その継承や創造への関心を高めるとともに、諸外国の文化のよさを理解すること。

【書道における課題】

- ・ 豊かな人生を形成していくために、想像力を働かせて自分の思いをかたちにしていくこと。
- ・ 書に親しんだり芸術文化のよさを味わったり、生活や社会に生かしたり豊かにしたりする態度を育成すること。
- ・ 小・中学校の国語科の書写からの一層の円滑の接続を図ること。

(2) 改善の具体的事項

生徒の個性を生かした創造的な活動を行い、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、芸術や文化についての理解を一層深め尊重する態度を養うことを重視して、次のような改善を図ることが必要がある。

ア 「音楽Ⅰ」においては、中学校での学習内容を踏まえ、表現領域を「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野で構成することとし、表現領域全体を通じて創造的な表現力を高めるとともに、音楽に対する総合的な理解を深める観点から、表現領域のすべての分野と鑑賞領域を学習するようにする。

イ 「美術Ⅰ」および「工芸Ⅰ」においては、芸術としての美術や工芸への関心や理解を高めるとともに、我が国の美術や文化についての学習を重視し、美術文化に関する鑑賞が充実して行われるようにする。また、鑑賞に充てる授業時数を十分確保するようにする。

ウ 「書道Ⅰ」においては、中学校国語科の書写との関連をより一層明確にする観点から、「漢字仮名交じりの書」の内容の改善を図るとともに、総合的に書道に対する理解を深められるようにする。また、書の文化の継承と創造への視野を広げ、理解を深めるとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かにする観点から、鑑賞の学習が充実して行われるようにする。

エ 「音楽Ⅱ」においては、音楽の表現力を一層高める観点から、表現領域の三つの分野のうちから一つ以上を選択して学習するとともに鑑賞領域を学習することとし、特に鑑賞に充てる授業時数を十分確保するようにする。また、「音楽Ⅲ」においては、表現領域の三つの分野及び鑑賞領域のうちから一つ以上を選択して学習することとし、いずれの学習においても我が国の伝統音楽の学習を含めるようにする。

オ 「美術Ⅱ」においては、個性を生かした創造的な美術の活動をしていくための資質や能力を高めるため、表現領域のいずれか一つ以上の分野と鑑賞領域を学習するようにする。また、「美術Ⅲ」においては、個性を更に伸ばすことができるようにするため、現行と同様に表現領域の各分野及び鑑賞領域から一つ以上を選択して学習する。

カ 「書道Ⅱ」においては、表現領域については「漢字仮名交じりの書」を含め二つ以上の分野を選択して学習するとともに、書の文化に関する鑑賞領域を学習する。また、「書道Ⅲ」においては現行と同様に表現領域の各分野及び鑑賞領域から一つ以上を選択して学習する。

# Topic

## 社会とつながる芸術教育①

～ものづくり・キャリア教育・情報教育の視点からの体験活動～

変化の激しい社会を担う子供たちに「生きる力」を身に付けていくためには、教科等を横断し、地域と連携して様々な体験活動を進めていく必要があります。実社会の中でのものづくりや、勤労観・職業観を育てるキャリア教育、また、様々な情報機器を活用した情報教育の視点から、地域と連携して取り組んだ芸術の授業実践例を紹介します。

### 【A高校】 「市民文化ホールのお仕事を覗いてみました」(音楽科)

本校の1年次生では、将来音楽に携わりたい生徒を対象に、インターンシップで市民文化ホールの仕事を体験しました。舞台では、反響板・照明・音響等の説明を受けました。また、年間の公演計画をどのように立てているのか伺いました。



調光室で舞台照明の操作について学びました



公演の企画・調整などホール全体の運営について学びました

#### 生徒の感想① (作曲家志望)

文化ホールが市民オペラの運営に関わっていると聞き驚きました。又、音響や照明の話は、思っていたよりもずっと細かいものでした。舞台に立つ輝かしい人々の裏で「いいもの」を作ろうとする人の姿がこんなにも身近にあることに驚きました。私の夢は作曲家になることです。舞台を照らす光でなくても、曲を作るということは、そういう演出の一端を担うことと同じなのだということに気がつくことができました。

#### 生徒の感想② (ピアニスト志望)

訪問の前はあまり興味がなかったのですが、研修が進むにつれ、いつも私たちが見ていた舞台裏はほんの一部に過ぎないということがわかりました。これからは、ホールを使用する時は、舞台裏の方々に対する感謝の気持ちを込めて使用したいと思います。このような気持ちになれたのもこの研修のおかげです。この気持ちを大切にし、来年は音楽の専門科目を選択して自分の夢に一歩でも近づけるように頑張りたいと思います。

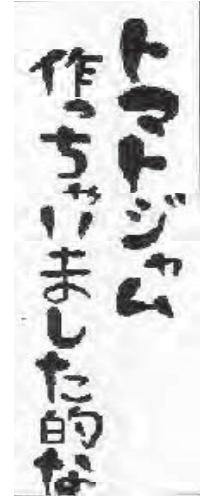
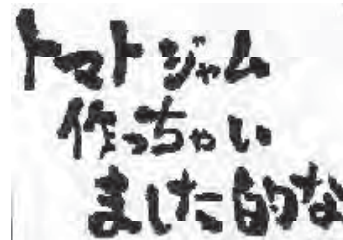
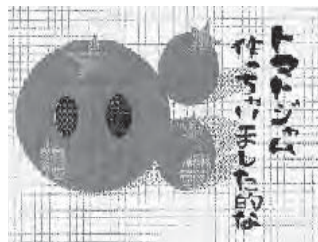
### 【B高校】 「商業科と連携して、商品ラベルを作成しました」(書道科)

町の特産であるトマトを使った商品開発・販売を全て生徒の手で行いました。

自分の作品をプレゼンテーションし候補作品を決定。

実際のラベルは文書デザインの授業でパソコンを使って作成しました。

身の回りの商品ラベルを収集・分析し、商品にあわせて、書体や構成を考えて書きました。



## 2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

### ～「音楽」の指導と評価の一体化を進める取組～

#### (1) 評価計画表の例

科目名		音楽Ⅰ								
単元名		私の好きな音楽（個人又はペア研究）								
単元の目標		① 興味・関心のある楽曲について様々な要素を考察することにより、音楽を総合的に捉え、楽曲固有のよさや味わいに気付くと共に、主体的な表現や鑑賞の技能を高める。 ② 考察した内容をレポートにまとめ、発表することにより、楽曲の成り立ちや固有のよさを、音や自分の言葉で説明し、批評し合う能力を身に付ける。								
評価の観点		関心・意欲・態度 〔観点Ⅰ〕	芸術的な感受や表現 の工夫〔観点Ⅱ〕	創造的な表現の技能 〔観点Ⅲ〕	鑑賞の能力 〔観点Ⅳ〕					
内容の まとめ ごとの 評価 標準	鑑賞	声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴に関心を持ち、意欲的、主体的に鑑賞しその喜びを味わおうとする。	声や楽器の特性と表現上の効果を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさ、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を感じ取っている。		声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を理解して、楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わおうとする。					
	表現 (創作)	音階や和音、音楽の組み立て方、音素材に関心を持ち、意欲的、主体的に創作や即興的表現を工夫している。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す表情の変化を感じ取って、創作や即興的表現を工夫している。	自己のイメージを持ち、創作や即興的表現をするための技能を身に付けている。						
	表現 (器楽)	いろいろな楽器の特質や奏法、視奏、曲の構成及び曲想に関心を持ち、意欲的、主体的に器楽を表現し、その喜びを味わおうとする。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、器楽表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に器楽表現するための技能を身に付けている。						
	表現 (歌唱)	曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心を持ち、意欲的・主体的に歌唱表現し、その喜びを味わおうとする。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に歌唱表現するための技能を身に付けている。						
評価規 準の具 体例	鑑賞	① 主体的に楽曲を選定し、研究に必要な資料を収集しようとしている。 ② 楽曲の歴史的背景や生活との関わりについて関心を持っている。 ③ 声や楽器の特性と表現上の効果について興味・関心を持っている。	① 楽曲成立の背景や生活とのかわりなどについて理解している。 ② 声や楽器の特性と表現上の効果について理解している。		① 他のレポートや発表の内容を理解し、楽曲固有のよさを感じながら聴くことができる。					
	表現 (創 作)	① 楽曲の構成や形式に興味関心を持っている。 ② メロディー、和声、リズムやそれらが関連した音楽上の効果について関心を持っている。 ③ 楽曲を構成する諸要素やそれらによって醸し出される固有のよさや味わい等を楽譜や自分の言葉で表現し、相手に伝えたり、相手の思いを理解しようとする意欲がある。	① 楽曲の構成や形式について理解している。 ② メロディー、和声、リズムの特徴やそれらが関連した音楽上の効果について知覚している。	① 楽曲を構成する諸要素やそれらによって醸し出される固有のよさや味わい等を楽譜や自分の言葉で表現し、相手に伝えるとともに相手の思いを理解し根拠を持って批評できる。						
	表現 (器楽)	① 楽曲の構成や形式に興味関心を持ち研究しようとしている。 ② 楽曲を構成する諸要素やそれらによって醸し出される固有のよさや味わい等を音や自分の言葉で表現し、相手に伝えたり、相手の思いを理解しようとする意欲がある。		① 楽曲を構成する諸要素やそれらによって醸し出される固有のよさや味わい等を音や自分の言葉で表現し、相手に伝えるとともに、相手の思いを理解し、根拠を持って批評できる。						
	表現 (歌唱)	① 歌詞の意味と音楽諸要素の関連について興味関心を持っている。 ② 楽曲を構成する諸要素やそれらによって醸し出される固有のよさや味わい等を音や自分の言葉で表現し、相手に伝え、相手の思いを理解しようとする意欲がある。	① 歌詞の意味と音楽の諸要素の関連について知覚している。	① 楽曲を構成する諸要素やそれらによって醸し出される固有のよさや味わい等を音や自分の言葉で表現し、相手に伝えるとともに、相手の思いを理解し、根拠を持って批評できる。						
時数	本単元の学習内容		学習指導要領との関連			観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ	評価資料
1	研究曲の決定（研究計画書作成）研究を進めるために必要な資料収集					鑑① 鑑①				・研究計画書 ・収集資料
4	研究項目の検討とレポート作り 1) 楽曲成立の背景 2) 楽曲の構成 3) メロディー、和声、リズムの特徴 4) 歌詞の内容と音楽の関連 5) 演奏の特徴と効果		・「楽曲の歴史的背景」（B鑑賞のイ）「音楽の組み立て方の把握」（A表現「創作」ウ）「旋律に対する和音の工夫」（A表現「創作」イ） ・「歌詞及び曲想の把握と表現の工夫」（A表現「歌唱」ウ）「声や楽器の特性と表現上の効果」（B鑑賞ウ） ・「声や楽器の特性と表現上の効果」（B鑑賞ウ）			鑑② 創① 創② 歌①	鑑① 創① 創② 歌①			・レポート・観察



	6) 曲の一番魅力的な部分について	※「高等学校学習指導要領解説」芸術第2章「各科目」第1節の3より	鑑③ 鑑③	鑑② 鑑②			
1	レポート発表計画の作成	・「音楽についての総合的な理解を深め、主体的な学習態度を育てるため、適切な課題を設定して学習することができる機会を設けるよう配慮するものとする」	創③ 器② 歌②		創① 器① 歌①		・発表計画書
3	レポート全体発表会の実施	・「(前略)音楽に対して同じような興味を持つ生徒同士が特定の課題を設定し、調べたり、話し合ったりした後で互いに発表し合うような活動を行ったり(中略)するなどの方法で学習を進めることが考えられる。このように生徒自らが課題を設定し、その解決を図っていく活動は、生徒の意欲や主体性を高めながら成就感や自信を持たせることのできる効果的な指導方法である(後略)」 ※「高等学校学習指導要領解説」芸術編 第2章「各科目」第1節の4より	創③ 器② 歌② 鑑②③		創① 器① 歌① 鑑①		・全体発表 相互評価表

(2) レポート作成に関わる具体的な指導例

	指導内容	指導の観点
第1時	<b>研究曲の決定</b>  <b>資料収集に関する指導</b>	全てのジャンルから、生徒自身が興味・関心のある曲を選択させる。但し、音源や楽譜、各種資料を用意できる見込みのある曲を選択させる。 第2時までに選択した曲の音源、演奏の映像、作詞・作曲者・アーティスト等に関する各種資料、楽譜などの資料収集を行わせるが、その際、インターネット、学校・地域の図書館などの施設を有効活用することも含めて指導する。又、情報科教員や図書館担当者などと連携し、生徒が活用しやすい条件整備を行うことも大切である。
第2～5時	<b>研究項目の検討</b> 1) 楽曲成立の背景 2) 楽曲の構成 3) 旋律、和声の特徴 4) 歌詞の内容と音楽 5) 演奏の特徴・効果 6) 曲の魅力的な部分 <b>レポート作成指導</b>	1) 楽曲成立に関する作曲者の思いやそれらを生み出した時代背景や人々の生活との関連などについて考えさせる。 2) 楽曲の全体の構成を形式(二部形式・三部形式)等の視点から分析・把握させる。 3) 音楽の三要素について、それぞれ特徴的な事項について考えさせる。 4) 歌詞の内容と音楽の三要素との関連や、それらが醸し出す音楽上の効果について考えさせる。 5) 特定のアーティストの演奏に着目させ、その特徴的な部分や表現上の効果について感受させ、まとめさせる。 6) 楽曲全体を通して自分自身が一番魅力的だと感じる部分について、その理由を分析し提示させる。 1) B4用紙2～3枚程度に清書させる(最初下書きをさせ、教師の指導を行ってから清書させる) 2) 分析の結果や自分の思い、考えを相手にわかりやすい表現の仕方を書いて文書化させる。(文書だけでは伝わりにくい事項については、図や表、楽譜や写真等を盛り込み、視覚的にも分かりやすいレポートになるように指導する) 3) ワードプロ、手書きいずれでも構わないが、手書きの場合は最大限丁寧な文字を書かせるよう指導する。
第6時	<b>レポート発表計画指導</b>	1) 発表時間については、生徒の全人数や実態に応じて担当教師が定めて生徒に提示する。 2) 発表時間の中で効果的な発表ができるよう具体的な指導を行う。 3) レポートをただ読むだけの発表ではなく、ポイントを絞って発表できるように指導を行う。 4) 言葉だけの発表ではなく、楽器を使って実際に演奏して説明したり、黒板やパワーポイントを使い発表する等の工夫についても指導する。また、ビデオやCD等の映像や音源などを使い説明することも効果的であることを伝え検討させる。
第7～9時	<b>レポート発表指導</b>	1) 発表の際は、相互評価シートで、自分や他の生徒の発表方法・レポートの内容について相互評価させる。評価の観点については、本題材のねらいや具体的な指導内容と合致させながら、生徒の実態に応じて適切に定める。

(3) 生徒が作成したレポート(例)

**夏の思い出**  
作曲者 中田 重道 (1932～2003)  
1932年8月1日 東京に生まれる。  
杏林大学・青山学院大学・東京音楽学校(現・芝大)ピアノ科卒業  
数曲を作曲し、数曲、合奏曲、ピアノ曲の作品が多数ある。中でも「あふれぬ情、思ひ届かぬ恋」は、いかに秋あつたかなと、か高直。

指揮者 前田 二生  
新東京室内オーケストラ・スロウキア(国立三ツ池)室内管弦楽団、東京シマーズ・シンガーズの常任指揮者。海外における活動が数多く、ウェンズの音楽祭など主要イベントに10年連続出演している。

**曲の特徴**  
●メロディーの特徴  
この曲の基本的メロディー  
このメロディーは基本に1つのメロディー・リズムで曲に特徴づけられる。  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

●和声の特徴  
この曲は、1932年当時の基本的メロディー・リズムで書かれたメロディー・リズムで書かれている。

(4) 発表会の様子



(左) ハーモニーの特徴についてピアノを弾いて解説  
(右) メロディーの特徴について黒板を利用して解説

### 3 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

#### ～「美術Ⅰ」の指導と評価の一体化を進める取組～

##### (1) 評価計画表の例

科目名		美術Ⅰ							
単元名		表現（彫刻）及び鑑賞 「リンゴを創る」							
単元の目標		(1) 自然物の持つ形的美しさを感じ取り、主体的にその感動を表現する。 (2) 素材や用具を生かし、対象をよく観察しながら、粘り強く制作する。 (3) 作品から、互いの良いところを鑑賞し、その美しさを味わう。							
評価の観点		関心・意欲・態度 〔観点Ⅰ〕	芸術的の感受や表現の工夫 〔観点Ⅱ〕	創造的な表現の技能 〔観点Ⅲ〕	鑑賞の能力 〔観点Ⅳ〕				
内容のまとめりごとの評価規準		絵画や彫刻の多様な表現方法に関心をもち、自己の考えや感動を基に表現を構想し、技能を生かすなど、意欲的、主体的に表現に取り組み、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて対象のよさや美しさ、自己の心的世界などをとらえ、主題を生成し、表現形式や方法、造形要素、材料や用具などについての体験的理解を基に、自己の表現意図に合った方法を創意工夫し、創造的に表現を工夫する。	表現形式を選択し、デッサンや色彩の表し方を工夫し、構成を考え、材料や用具を効果的に活用するなど、主題の意図を生かして表現する。	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然の中に働く美術の意義や価値などを感じ取り、理解し、映像機器や情報通信ネットワークなども活用して理解を深め、美術作品のよさや美しさを味わう。				
評価規準の具体例		①美に対する感動や情感、自己の考えを基に、主体的に表現しようとする。  ②表現の主題を深めるために表現の過程でも試行錯誤によってさらに練り高めようとする。  ③表現意図に応じて、新しい材料や用具の発見、活用につとめている。	①対象をよく観察し、感じ取ったよさや美しさや情感を基に発想をする。  ②色彩と形体、面や質感、量感、空間、均衡や動勢などの造形要素を理解し、表現の構想を練る。  ③表現の幅を広げ、自己の意図に合った表現方法を創意工夫する。	①スケッチやデッサンを繰り返し、対象の特徴をつかむ力を身に付ける。  ②絵画や彫刻における材料の特性や用具の使い方などを理解し、効果的に活用する。  ③表現方法の特性による表現効果の違いに気付き、意図に応じて創造的に活用する。	①作品のよさや美しさを深く味わい、題材のとらえ方や表現の仕方のよさを感じ取る。  ②自然の中の美的秩序や美しい空間を発見し、それらのよさや美しさを味わう。  ③表現のよさや作品の美しさに対し自己の意見を述べるができる。				
題材(時間)	学習内容			観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ	評価の方法	教材・教具等
導入 (1)	○作家の作品を鑑賞することで、彫刻の美しさを感じ取り、本単元の内容を理解する。			①			① ②	自己評価カード	・資料作品 (高村光太郎 他)
スケッチ (1)	○観察やスケッチにより、対象の特徴をつかみ、形体・質感・量感などの造形要素を理解する。				①	①		スケッチ 自己評価カード	・彫刻家の素描 ・スケッチブック ・鉛筆
彫刻 (6)	○実物に触れたり観察したことや、スケッチで理解したことをもとにして、彫刻する。			②	②	②		作品 自己評価カード	・スタイロフォーム角材 ・カッターナイフ
彩色 (3)	○アクリル絵の具を用いて、自由な発想で彫刻作品に彩色をする。			③	③	③		作品 彩色計画用紙 自己評価カード	・アクリル絵の具
鑑賞とまとめ (1)	○互いの作品を鑑賞し合い、感じ取ったことを鑑賞カードにまとめる。						③	鑑賞カード	

##### (2) 評価方法の具体例

本単元では、次の方法で具体的に評価する。

###### ア 自己評価カードによる評価方法

授業内容の理解、作業状況、表現の工夫やその意図などを、自分の言葉でまとめる。

###### イ スケッチと彫刻作品の評価方法

対象をよく観察することで形体・量感・質感などの特徴をつかみ、表現材料の特性を生かしながら意図に応じた表現を工夫する。

###### ウ 鑑賞カードによる評価方法

表現材料の違いによる素描の美しさや、題材のとらえ方、表現のよさを感じ取り、自己の意見をまとめる。

● 自己評価カード

○年○組○番 氏名○○○○

事前学習	作家による彫刻作品の鑑賞について評価をしましょう。 A:よくできた B:できた C:あまりできなかった
	様々な彫刻作品を鑑賞し、材料による表現の違いや彫刻の美しさを感じとることができた。 A・(B)・C
	空間・量感・質感・動静・均衡など、彫刻の造形要素が理解できた。 A・(B)・C
習	「気付いたこと」や「感じたこと」をまとめましょう。 具象彫刻は、単に物の形を写し取っているのではなく、作家の感じたものが凝縮されて込められていることが分かった。また、石で作ったものでも柔らかく感じたり、ブロンズ像が軽やかに見えるのが不思議だと思った。それぞれに美しさの違いがあることを感じた。
スケッチ	スケッチについて評価をしましょう。 A:よくできた B:できた C:あまりできなかった
	多方向から素描することで、リンゴの持つ形体の特徴が理解できた。 (A)・B・C
	量感・質感などを捉えて描くことができた。 A・(B)・C
	「気付いたこと」や「感じたこと」をまとめましょう。 自分が思っていたより、リンゴの表面には複雑な凹凸があることが分かった。
彫刻	彫刻について評価をしましょう。 A:よくできた B:できた C:あまりできなかった
	リンゴの持つ形の美しさを感じ取り、立体感や量感を意識して彫刻できた。 A・(B)・C
	素材や用具を生かし、対象をよく観察しながら、粘り強く制作できた。 (A)・B・C
	「気付いたこと」や「感じたこと」をまとめましょう。 スタイロフォームはとても削りやすくて、気を抜くと削りすぎてしまうので注意した。初めの面取りが難しかったが、仕上げ彫りのころは、慣れてきてとても楽しかった。
彩色	彩色の計画と着彩について評価をしましょう。 A:よくできた B:できた C:あまりできなかった
	自由な発想で、自分の思いを色彩や形で表現することができた。 A・(B)・C
	素材・材料を生かし、自己の思いを表現するように工夫した。 A・(B)・C
	「気付いたこと」や「感じたこと」をまとめましょう。 リンゴに何を描くか構想するのに時間がかった。リンゴの曲面に絵を書く時、筆がうまく使えず苦労したが、自分だけのリンゴができて満足した。

● 鑑賞カード

○年○組○番 氏名○○○○

鑑賞した作品の中から、3つの作品を選び、批評や感想をまとめましょう。

○年○組○番 作者氏名 ○○○○
リンゴの形がよくできている。細かな部分まで観察し彫刻し、丁寧に仕上げているのが良いと思った。
○年○組○番 作者氏名 ○○○○
星空をリンゴに描くという発想が面白く、とてもきれいだ。まるで、夜空を凝縮してリンゴをつくったような作品です。
○年○組○番 作者氏名 ○○○○
この作品は、塗ってある色の効果で、リンゴが大きく見える不思議な作品だ。リンゴの形の美しさが強調されていると思う。

● 制作の様子



①リンゴを多方向から観察し、スケッチし、形の特徴を捉える。



②発泡剤の各面に形を写してから、カッターナイフで大まかに面取りをする。



③彫りすぎに注意しながら粗彫りし、少しずつ複雑な面を捉えて仕上げる。



④計画用紙に色鉛筆を使って彩色の構想を立てる。



⑤彫刻したリンゴに、アクリル絵の具で自由に着彩する。



#### 4 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

##### ～「書道Ⅰ」の指導と評価の一体化を進める取組～

###### (1) 評価計画表の例

科目名	書道Ⅰ							
単元名	漢字仮名交じりの書（座右の銘）							
単元の目標	(1) 感興の湧く言葉を見つけ、それを書作品に反映し深化を図ろうとする。 (2) 意図に基づく表現の構想と工夫を通して、書表現としての深化を図ろうとする。 (3) 軸装作業を丁寧に行うことで、書を取りまく文化への理解と創造への関心を一層高めることが出来る。							
評価の観点	関心・意欲・態度 〔観点Ⅰ〕	芸術的な感受や表現の 工夫〔観点Ⅱ〕	創造的な表現の技能 〔観点Ⅲ〕		鑑賞の能力 〔観点Ⅳ〕			
内容のまとめりと との評価規準	多様な書表現に関心を持ち、意欲的、主体的によりよい表現を目指し改善を目指すとする。	感性や想像力を磨いて創造的な表現を工夫する。	用具・用材を生かし、言葉に合う表現を深化させ、また軸装と作品との調和を図る。		作品を客観的に観察し、より良い表現を追及することができる。			
評価規準の具体例	①言葉に思いを込め積極的に構想を練り、よりよい表現を模索しようとする。 ②意欲的、主体的な活動を通して表現の構想から完成にいたるまでの充実感や喜びを味わおうとする。	①言葉に込めた思いを具現化し構想を立てることができる。 ②思いに基づき、文字の大小、潤渇など作品効果を工夫して自らの表現を高めることができる。	①用具・用材の多様性を知り、言葉に適する表現を選択することが出来る。 ②意図に基づき、全体の構成、大小、潤渇等に配慮しながら作品をまとめることができる。 ③作品が栄える軸装をすることが出来る。		①書表現と軸装により言葉が生きてくることを体得しようとする。 ②鑑賞と表現が相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取る。			
題材（時間）	学習内容			観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ	評価方法
1・2	○私たちの生活と掛け軸との関わりについて(東洋の文化) ○掛け軸の形式について ○言葉（座右の銘）探し			①			①	学習カード
3・4	○書家・禅僧・高校生の作品を鑑賞し合い、表現の違いを感じ取り、印象をまとめる。			②	②	①	②	観察、学習カード
5・6	○「魂」を題材に、点画の構成を工夫する。 ○「魂」を題材に、筆圧・筆の構えによる表現の違いを確かめる。			①	②	②	②	観察、学習カード
7・8	○墨の濃淡・潤渇・運筆の遅速による表現の違いを確かめる。			①	②	②	②	観察、学習カード
9・10	○「永訣の朝」を使い、構成を意識した表現を工夫する。			①	①	②	②	観察、学習カード
11・12	○自分で獲得した言葉を、用具・用材を工夫しながら表現する。			①	①	①	①	観察、学習カード
13・14	○自分で獲得した言葉を、書き浸る。 ○作品を完成させる。			②	②	②	①	観察、学習カード
15～22	○裏打ち作業 ○軸装作業			②		③	①	観察
23・24	○作品鑑賞会によりそれぞれの人の作品意図をくみ取る。			②			②	観察、学習カード

###### (2) 評価方法の具体例

本単元では、次の方法で具体的に評価する。

###### ア 学習カード・プリントによる評価方法

学習内容についての理解や新しい発見、作品への自己評価等が適切にまとめられている。

###### イ 作品による評価方法

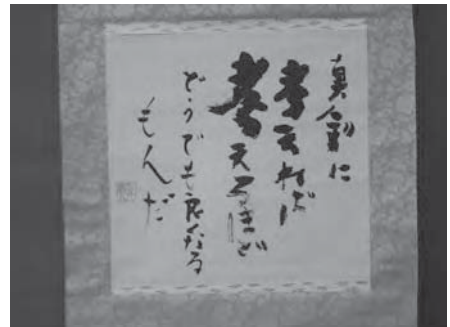


- (ア) 深みのある言葉を選択し、日常的な鑑賞に堪えうる作品を制作している。
- (イ) 全体の表現や構成について工夫のあとが見られる。
- (ウ) 軸装作業に積極的に取り組み、言葉と調和している。

<学習カードの具体例>

年+組・氏名	
<p>① 自分の作品を見て</p> <p>ア) 作品と柄(色)は合いましたか、 合いませんでした</p> <p>イ) 表装はうまくいきましたか、 長さは十分には出来た</p> <p>ウ) 自分の作品を全体的にみて 感想を、 文字が上手いかなと思った。もう書きたいものと練習して創作の チャンスを探した。機会があればまた創作したいと思つた。 紙にしるがふて、また、下書きもできた。 周りの紙をきれいに切ることは重要だ。また切るときは、 目盛りがなくておぼろげに出来上がりはよくない。下書き筆は きれいに描きかたに出来がりは生かす。今回も同じように考えた。 もともと工作がのびた。仕上げた。 上の木を貼るところは上手いと思った。周りの紙を巻くことが できた。 長さを計ったりと細かい作業はできたと思う。 "天"の字が自分の筆で描くのは、少し出来たと思う。</p> <p>エ) 自分の作品を10点満点で採点すると 8点</p>	<p>② 全員の作品をみて</p> <p>ア) 柄(色)と作品がピッタリ賞ベスト3は... 安達 君・丸 山田 君・丸 小島 君・丸</p> <p>イ) 一文字と天地の組み合わせで、美しく感じるのは? 一文字 → _____ 安達 君 天地 → _____</p> <p>ウ) 表装がきれいなベスト3は... 山田 君・丸 小島 君・丸 山田 君・丸</p> <p>エ) 優秀作品賞ベスト3を簡単な理由を添えて 小島 君・丸 作品がとて上手いと思ふ。周りにピンとつけて上手い。 組み合わせと自然さ。作品が目立つ。また、上手い → 上手い。文字は3年前の頑張った成果だと思ふ。</p> <p>安達 君・丸 強(優しい)感じの作品で、文字と柄が合っていると。いい!!!</p> <p>山田 君・丸</p>

<完成作品の例>



## Topic

### 社会とつながる芸術教育②

～ものづくり・キャリア教育・情報教育の視点からの体験活動～

#### 【C高校】 「札幌モエレ沼公園の紹介スライドを作成しました」(美術科)

札幌市東区にあるモエレ沼公園の鑑賞授業を行い、事前に調べたことや観察し感じたことをまとめ、画像とテロップによる『施設紹介スライド』の制作をしました。

#### ＜モエレ沼公園での鑑賞授業＞～ガラスのピラミッドから公園全体を眺めている生徒たち



グループごとに公園内を鑑賞し施設紹介に必要な情報や造形作品から受ける感想をもとに写真撮影などの取材を行いました。

次にイサムノグチの生き方や制作意図、作品のもつ造形表現の特徴や周りの環境などについてメンバーと意見交換をしました。

#### ＜他教科の先生方による鑑賞指導と紹介文指導＞

モエレ沼公園の魅力をどのように人に伝えるか考えながら画像を選び、その画像紹介のシナリオを考え、説明テロップの原稿をまとめてみました。その原案を他教科の先生方にも見てもらい、貴重なアドバイスをいただきました。

#### ＜画像編集の授業＞

パソコンを使い画像とテロップを組み合わせてスライド編集しました。

編集作業が終わってからもモエレ沼公園の魅力が伝えられているか、興味をもって見ることが出来る構成か、わかりやすく見ってもらえるか、来園したくなるような楽しさが表現できているかなどチェックや手直しを行い完成しました。



#### ＜グループによる作品発表会＞

スライド作品が完成したあとは、グループ毎に発表し、感想や意見の交換をしました。互選による優秀作品は、放送局の朝のテレビ放送の枠の中で全校生徒に紹介する予定です。